

平成25年度第2回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成25年5月28日（火） 10時30分～12時00分
- 場 所： 京都市立病院 4F会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世
理 事 新谷 弘幸, 桑原 安江, 大森 憲,
山本 壯太, 能見 伸八郎, 木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

1 開会

2 議事

(1) 平成24年度業務実績概要及び平成24年度決算速報値について

- 外来の診療単価が上昇した主要因は何か。
 - ・ 高度医療機器を使用した検査や診療の実施によるところが大きい。また、がん治療関連における化学療法件数の伸びが著しいことも影響している。
- 給与費が増加したことは、新館開院に伴う体制補強と関連していると考えられるが、通常困難である医師確保について、どのような工夫がされているのか。
 - ・ 基軸となる人材は大学病院からの医局人事によるものであるが、最近では、自らの意思で市立病院に勤務することを希望する者が増加している。
- 入院及び外来の延べ患者数が減少した理由はあるのか。また、12月以降に救急車搬送受入数が急激に減少したことの理由は。
 - ・ 延べ患者数の減少については、入院平均在院日数が短くなったことによるものであり、実患者数が減少したわけではない。
 - ・ 救急車搬送受入数の減少については、病棟移転に伴い2月から3月にかけて、患者の受入れを制限したことが主要因である。経常状態において悪化したわけではない。
- 入院日数が短縮することによる患者への影響を考えると、患者が安心して退院できることが重要であるが、どのような仕組みづくりが行われているのか。
 - ・ 平均在院日数が短縮された要因としては、外科において、手術・検査などに伴う痛み等を少なくする低侵襲手術が増加したことなどによるものである。
また、患者が安心して退院できることを原則としており、入院時から患者の退院後の生活を想定したうえで、医師や看護師が中心となり、退院に向けて計画的にチームカンファレンスを実施している。さらには、患者の退院先の地域の訪問看護ステーションのスタッフが来院し、カンファレンスに参加することも増えるなど、病病連携、病診連携についても順調である。
- 営業外費用の財務費用において、京都市からの借入金の利息比率はどの程度か。
 - ・ 借入の時期によるが、概ね1～2%程度である。法人においては民間資金を利用せず、公的資金で運用しているため、利率は低く抑えることができる。
- エネルギー関連の指標について、達成状況が芳しくないことの理由は。
 - ・ 病棟移転に伴う廃棄物の増加等が背景にある。平成25年度にも病棟移転を予定しているが、目標達成に向けて、引き続き努力をしたい。
- 一般的に、どの病院においても、病棟移転の時期は大幅な赤字となることが多いが、京都市立病院に関しては十分な実績を残していると考ええる。

3 報告等

(1) 会計システム情報の紛失事案について

- 当該案件については、本理事会への報告で完結するのか、京都市への報告義務はないのか。
 - ・ 京都市への報告義務はないが、報告をもって完結したとは考えていない。本件については、委託事業者に一義的な責任があるとは言え、法人の管理責任として、個人情報の取扱いに対する管理体制が不十分であったことは反省すべきことである。今後、再発防止策として、個人情報管理に関する仕組みづくりを具体化することが法人の責務である。また、京都市立病院においては、PFI事業の事業者としてSPC京都株式会社及び協力企業が病院に出入りする関係上、今後、情報管理の強化徹底が必要と考えている。
- サーバー室に常駐している病院情報管理会社はどのように関係しているのか。
 - ・ 病院情報管理会社は診療情報に関するシステム管理を担当しており、財務会計システムの管理は対象外である。総合的にサーバー室の全体管理ができていなかった点に課題があった。
- 個人情報対策として、民間ではパソコンを使用せずFAX等で連絡のやり取りを行う事例もあるが、市立病院において外部との連絡にパソコンを使用することの安全性は担保されているのか。
 - ・ 京都市立病院のシステムについては、医事情報を扱う電子カルテシステム、メール等を利用できる院内イントラネットシステム、及び、院内インターネット利用環境と、全く別個の3系統に分化させており、情報セキュリティに関する管理は一定水準を満たしていると考えている。
- 発生してしまった事案については、今回のように、速やかに市民に対して情報提供を行うよう心掛けていただきたい。
 - ・ 情報の可視化を推進することで、市民に信頼される病院づくりに努める。

(2) 経営状況月次（4月分）報告

- 入院診療単価が大幅に上昇した要因は何か。
 - ・ 麻酔科医の増員や、新館開院に伴う手術室増設など、手術環境を強化したことにより、手術枠を拡大することができた。その結果として、外科における手術件数が増加したことが影響したものである。
- 世間でも勤務医問題が話題になっているが、業務の増加に伴い、医師が過度の超過勤務を行うことがないよう、十分な配慮をお願いしたい。
 - ・ 医師に関しては、できる限り当直明けに手術に従事することなくチーム編成が行えるよう人員体制を整備した。子育て支援に関する既存制度の有効活用など、医師に限定することなく、引き続き、医療従事者のワーク・ライフ・バランスの実践に取り組んでいく。

(3) その他

- 京都市立病院のイメージキャラクター募集については画期的な取組であるが、キャラクターの制作に当たっては、今後の活用を踏まえて、キャラクターにストーリー性や個性を持たせること、及び、追加募集を行ってもよいので、一切の妥協をすることなく、満足のいくものを作ること心掛けていただきたい。
 - 完成した暁には、例えば、着ぐるみを活用し、外来患者に癒しを提供することなども可能であると考える。
 - ・ 来年度の京都市立病院グランドオープン時に披露することを目標に、デザイン、プロフィールともに妥協することなく、時間をかけて協議していく。
- イメージキャラクターの制作には、どのような意図があるのか。

→・ 京都市立病院を市民にPRすること、及び、京都市立病院について、より多くの人に知っていただき、考えていただく機会とすることを趣旨としている。

4 閉会